

# 令和元年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

## 1 日時

令和元年7月3日（水） 午前9時30分～

## 2 開催場所

中央コミュニティセンター8階 83・84会議室

## 3 出席者

（委員）神野委員長、椎原委員、関委員、廣崎委員、藤田委員、ジャブリ委員、鶴田委員

（事務局）那須生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、吉野文化振興課長補佐、川口文化振興班主査、渡邊主任主事、鈴木主任主事、樺澤主事

千葉市文化振興財団中嶋企画事業課長、花澤主査、鈴木アーツステーション室長、石坂主任主事 太田美浜文化ホール館長、若葉文化ホール野崎企画広報担当、高藤美浜・若葉文化ホール統括館長、千葉市美術館畑井学芸員

## 4 議題

- （1）文化施策の評価について（平成30年度評価対象事業）
- （2）令和元年度評価対象事業の選定について
- （3）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について  
（平成30年度実施状況、令和元年度実施予定）

## 5 その他

- （1）平成30年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告について
- （2）令和元年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について
- （3）新しい文化プログラムにつて

## 6 議事の概要

- （1）文化施策の評価について（平成30年度評価対象事業）  
平成30年度評価対象事業について1次評価シートの報告と意見交換を行った。
- （2）令和元年度評価対象事業の選定について  
時間の都合上省略し、後日、事務局から令和元年度評価対象事業(案)を提示することとなった。
- （3）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について  
時間の都合上省略し、資料について質問や意見がある場合は、事務局まで問い合わせただくことになった。

(4) 平成30年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告と令和元年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について

時間の都合上省略し、資料について質問や意見がある場合は、事務局まで問い合わせさせていただくことになった。

(5) 新しい文化プログラムについて

新しい文化プログラムについて報告を行った。

## 7 閉会

## 8 会議経過

<事務局説明>

<事務局説明>

【神野委員長】

限られた時間の中で、検討していくことになっております。事前に、資料の内容を読み込んでいただいたという前提で進んでいきたいと思っております。昨今の状況を考えますとオリンピック・パラリンピックに向けて、文化プログラムを取り組まれていくということで喜ばしいこともありますが、淡々と評価を行っていくことも重要かと思っております。

議題1の文化施策の評価について、平成30年度評価対象事業に進みたいと思っております。

<事務局説明>

【神野委員長】

評価の流れについて、ご説明をいただきました。今の説明に関して、ご質問はありますか。

1次評価シートの説明に進みたいと思っております。説明を含め1事業あたり15分、6事業で1時間半を予定しております。資料1-1ベイサイドジャズ千葉について千葉市文化振興財団より説明をお願いいたします。

<文化振興財団説明>

【神野委員長】

それでは2次評価シートの作成するための討議に入りたいと思っております。討議の流れにつきまして、事務局から説明がありましたとおり、1次評価シートの評価が妥当かどうかという観点で検討していただきたいと思っております。ここで討議していただいたものを事務局でまとめていただき、2次評価シートにまとめていただきたいと思っております。ベイサイドジャズ千葉については、鶴田委員に視察をしていただいております。視察シートについて事務局から説明していただきます。鶴田委員には、追加事項等がありました

ら、後ほどの討議の中でお願いいたします。

#### <事務局説明>

##### 【神野委員長】

2次評価シートを作成するために討議に入りたいと思います。事業主体のほうから説明の通り、おおむね高い評価が主催者からあります。満点でないことは、天候による実施ができなかったことが大きな要因であるということです。新しい事業としては、クルージングを実施したということです。

##### 【鶴田委員】

視察に行かしていただきました。見せていただいたのは ごく一部で、9月28日の前夜祭、文化センターでのコンサートの第二部とジャズストリートのうち、お店が二店でした。資料の中でアンケートを読ませていただくと、ステージのMCに関する違和感があり、実際のお客様のアンケートの感想を踏まえて、今後、大原保人さん自身のMCのことは、考えていただくことはできないですか。

今年のベイサイドジャズに関しては、すでに走り出しているかと思えます。コンペティションの参加グループに関しても、ジャズクルージングについても、今年にかぎらず、来年度に関しても、事業として進んでいるのではないかと感じますが、ベイサイドジャズも9月で終わっているので評価に関してもう少し早く、12月の段階で、このような場を設けることはできなかったのかと思えます。

##### 【神野委員長】

後の意見については会議のあり方についてですので、ここでは触れずに 最後にまた議論する場を持ちたいと思います。

MCについては、個々に、いろいろな内容の魅力を、会場にいる人に効果的に伝えるためには、型にはまったものではなく、ふさわしい対応をもう少し検討がされるべきではないかと受け止めました。画一的なMCによって何か損なわれることが実際あったのではないかと思います。これについては、事務局もしくは、事業者から何かありますでしょうか。

##### 【文化振興財団・花澤主査】

司会者の件ですが、数年、アンケートに厳しい意見をいただいております。今年は、別の形で進行して行きたいと思っております。

##### 【椎原委員】

事業内容に関しては、市自体は、仲介、強制することはできないと思います。事業者が自主的にアンケートのことについて改革していくことはいいが、この委員会がこうだと言ってしまうことは危険で、事業内容に市が介入することになるのは、あまり良くないので、そこは注意したほうがいいと思います。

芸術文化振興基金から助成金が出たとのことですが、今年、はじめてなのか、例年、いただいているのか予算規模はいくらくらいなのか。

【文化振興財団・花澤主査】

芸術文化振興基金は以前申請したことがあるのですが、この分野に関しては、2回目の申請となりました。754,000円ほどです。ただしプロの部分の助成金になりますので、精算の結果、収支で黒字になった関係で、ゼロとなっております。同じ分野で今年度に関して申請はしておりますが、精算によっては金額が変わってくることになるかと思えます。

【椎原委員】

他の助成金に関しては、例えば公的助成金を申請するとかはお考えなのか。文化庁の予算の中で町づくりとかで、いくつかあると思いますが、そのあたりの考えを教えてください。

【文化振興財団・花澤主査】

芸術文化振興基金に申請している関係上複数の申請ができませんので、どれが一番いいのかを考えて申請しております。

【椎原委員】

市民主体のところ、ボランティアスタッフ17名ということの評価はどのようにするのか。この規模でいうと少ないような気もするが、ほぼ妥当なのか、そこが気になったところです。

情報発信のところ、ホームページを開設し公開しているようですが、昨今、SNSを利用ということがあるかと思いますがツイッターを見ますとフォロワーが160人程度しかいないので、その部分で改善の余地があるかと思えます。

【神野委員長】

今のご指摘だと市がMCを変更させるということは、妥当ではないという事と、アンケートの結果等を踏まえて改善に取り組んでいただきたいということです。

助成金については、財団では努力されているということです。ボランティアの数の評価に関して、17人というのは少ないということかと思えますが、実際には、もっと多くの数を求めていたのでは。アマチュアの演奏参加も市民参加ととらせている。ボランティアとしては少ないが、演奏者としては評価できる数が集まって「3」となるのかなと思えます。この先、課題として広報を含めてやっていくことが求められているということです。

視察していただいた意見の中で、リピーターが多いことは評価もできるが、新しい参加者が得られていないのではないかという印象を持ったということです。客観的なデータがないので1次評価シートの中に反映させるということは難しいとは思いますが、このことを踏まえ、リサーチを今後やっていただきたいです。

【廣崎委員】

雨天の場合を想定してのお考えがあるといいですね。今後対策を考えていますか。

【文化振興財団・花澤主査】

今年は、屋根のある場所を考えております。モノレール2階の会場など。小さい公園などは屋根の高いテントを準備するなど可能な限り努力したいと考えております。

【ジャブリ委員】

スタッフに謝礼を出したりして増やせないですか。イベントの規模に対して非常に少ないと思いました。

【文化振興財団・花澤主査】

スタッフに関しては、千葉大学ジャズ研究会40人もスタッフと考えていましたが、30年度は雨のため中止になりましたので、通常でしたらもう少し多かったと考えております。

【神野委員長】

実際に働いてくれた人数を書いているため、少なめになっている。実際に晴れていたら50数名ということですが。

【関委員】

来場者数が細かい単位までになっていますが、どのような感じで把握していますか。

【文化振興財団・花澤主査】

ジャズストリートについては延べ人数になっています。各会場でスタッフがカウントしております。また、チケットを数えたりしております。大きい会場では確認はしておりますが、実際にまとめてしまうこともあります。

【神野委員長】

厳密にやっているということですね。具体的な評価の点数に関して、変更等、具体的なご意見がありましたらお願いしたいと思います。こども・若者、市民主体、ボランティアに関しては「3」でいいのかと思います。先ほど、廣崎委員からありましたが、9月に行くことで天候の影響を受ける可能性があるので、中止の可能性を少しでも低くなるような対応を引き続きお願いしたいと思います。この評価で行きたいと思いますがいかいかがでしょうか。

【ジャブリ委員】

メインイベントが、雨天で中止になっているのに、「3」は若干あまい評価ではないでしょうか。  
2. 5位ではないか。

【関委員】

14,530人から7,000人と相当減っている気がします。昨年度、20周年ということであるが、前の年の数字を書いてほしいです。

【神野委員長】

メインの事業が行なわれていたら、7,000人が来たという想定でいいのでしょうか。

【文化振興財団・花澤主査】

シートに前年度の人数も書いてありますが11,000人から12,000人になります。

【神野委員長】

前年度と予算規模が若干少なくなっていることと、天候の問題を考えると、妥当、前年度並みです。雨天で中止になった場合の評価を、どのように考えないのかという前提にはなっていないこともあり、厳しい意見も分かりますが、今年度は「3」にさせていただいて、2次評価シートの中に、今後の検討すべき事として反映させていただき、より良い事業にさせていただくということでいいのでしょうか。

続きまして、ユースカルチャー支援事業の説明をお願いいたします。

<文化振興財団説明>

【神野委員長】

ご意見宜しく願いたします。事業のねらいの妥当性で、「4」がついていますが、力点がおかれているところが、キャリア教育の内容になっており、この事業自体がキャリア教育を目標にしているわけではなく、文化芸術を楽しむ市民への支援ということであり、キャリア教育としての価値があったという副次的な成果は評価してもいいが「4」というのはいかがなものかと思えます。メイクとか衣装の専門家から教育的な体験を通して、市民芸術活動に関わっていく人材の育成ということだと思えますが、アイドルのグループが設定され、発展性としてどこに向かって行くのかがよく見えない。妥当性の「4」というのは評価としては高すぎるのではないかという印象を持ちました。

【椎原委員】

事業自体の位置付けが、おかしいのではないかと。民間でやればいいのではないかという気がします。舞台スタッフの衣装・メイクに特化するということは、興味を引こうと迎合している気がしないでもない。舞台芸術の楽しさ伝えるのであれば、民間でやればいいような事業の気がしないでもないということがあって「4」とする理由がわからないです。基本施策の適合の達成度で、参加者が半分しか集まらないことは、厳しく事業を見直すべきだと思います。

【神野委員長】

効果の(2)費用対効果の点も、椎原委員のご指摘を踏まえるならば、限られた参加者の満足度が高ければ費用対効果が高かったということではないと思えますし、この事業そのものの制度設計がキャリア教育寄りのレトリックになっていることから矛盾しているということで、この評価も高すぎるのではないかと思います。

【関委員】

衣装・メイクで親しみやすくと言っていますが、衣装とメイクする側とされる側では舞台では違ってきます。する側としてはそれほど親しみやすくはないと思います。裏方としては難しいテーマだと思いますが、自分で着る側と作る側とは違うという認識が、この文章からは感じられないので、「4」は少し高いかなという気がします。

【ジャブリ委員】

1-2の達成度のコメントが、内容とずれているようです。人数をベースに検討しているが、内容をベースに検討すべき項目かなと思いますが。

【神野委員長】

そうですね。その中で、人数は少なかったがある程度のニーズがあることがわかったので、「2」いうことなので、内容の評価に引っかかっているような書き方ではあるが、実際はちゃんと書いていないということですね。

【文化振興財団 鈴木アーツステーション室長】

達成度ですが、参加された方の満足度は高いということで評価はしているのですが、多くの方に提供ができなかったということをもふまえて「2」という評価にしました。

【神野委員長】

満足度というよりは 満足度が低くても、事業目標に関して施策のねらいの達成ができたということもあるかと思うので、そこが評価として妥当なのかというところは疑問が残ります。

【廣崎委員】

民間でやるような事業であることはわかりますが 金額がかかると思います。市でやる意味は若者に体験させて安くということだと思うのですが、それでも6,000円かかります。民間でやると費用が高くかかり、応募人数が少ないことも、金額的なこともあるのかなという気がしました。この事業を継続するのか、そういう点でも考えてみたらいかがかなと思います。

【神野委員長】

行政が行っているから、低廉で抑えられたということもありますが、それでも高いし、そもそもこれは行政でやるべきなのかということありますし、これはトータルで考えるべきものではないかということですね。

【ジャブリ委員】

費用対効果が「4」とは甘すぎると思います。

【神野委員長】

参加した人の満足度は高かったことが「4」というのは、市民との関わりということで、他の「4」は高すぎると指摘が多くありますので、今日に議論をふまえて反映させていただきたいと思います。

【ジャブリ委員】

1-2と5-2の内容の評価のところが逆ではないでしょうか。費用対効果ですと人数的なことですし、達成度ですと内容的なことですので、逆ではないでしょうか。

【神野委員長】

5-2は内容的な評価の事が書いてある。1-2は数値的なことであり、これはどちらかというとも5-2に影響を与える内容ではないかということですね

【椎原委員】

ユースカルチャー支援事業で若者文化を育成することを目的にやっているが、民間の企業の看板を使ってやることで、ユースカルチャーの自体の定義付けがどこまでユースなのか、若者文化であればなんでもいいのか、根本的なところが見えない。

【神野委員長】

基本施策の目指すところは、事業を通して、その後に、主体的に文化芸術活動を支えるような人材になっていくことを期待しているということですから、意味がないとは言わないが、事業の構造として、受講した若者達が千葉市で主体になるということは考えにくいと思います。施策のねらいからもずれているのではないかと思います。

椎原委員の指摘ですと、ユースカルチャーをどのように定義しているのかというところがまず無い、非常に幅が広いので、その中のこのようなことに対して、このようにアプローチしているというところがないと内実を伴わないということになりかねないということになりますので、提出いただいた内容よりは厳しい評価になるのではないかと思います。

次のチバリアフリーアーチプロジェクトについて お願いいたします。

<文化振興課説明>

<視察シート 文化振興課説明>

【神野委員長】

委員の中から、鶴田委員とジャブリ委員が視察をしていただいております。それでは、討議に入らせていただきます。

【ジャブリ委員】

事業視察シートの「その他」に関して補足があります。



1階、3階もスタンディングのイベントでありまして、高齢者の方が非常に多く、お疲れになっただろうと思われました。こちらについては、考えた方がいいのではないかと思います。レベルが高いイベントでプロっぽく感じられたイベントで、来場者が、非常に満足しているように見受けられましたので、来年度以降、もっと大きな会場でできないかなと感じました。

【神野委員長】

実際に来られる方への配慮ももう少しの方がいいのではないかと感想を持たれたということで。

【鶴田委員】

市民との関わりの周知度に関する事かと思いますが、会場は大型商業施設で、当日、実際ここを利用されたのかを知りたいです。その中で2000人という数字だけをみると大きいと思うのですが、付近の方の数からいったら、もっと来ていただいてもよかったのではないかと思います。偶然通りかかった方たちを、どのようにして、誘導してくるか、引き込んでくるのかということがむしろ大事なのではないかと思います。

観覧者からの意見から評価は成り立っていますが、出演者側からの意見・改善点がアンケート集計の中にたくさんありますが、ここには、出演した方が不便を感じたことがたくさん書いてありますが、この中の評価対象のどこに反映されているか疑問に思います。

【文化振興課 川口主査】

アンケート集計から、出演された方々から、当日のスタッフの対応等さまざまな指摘をいただいております。事業評価シートには具体的に反映していませんが、アンケート結果は真摯に捉えておりまして、来年度は、不便さを感じないように改善策を考えているところです。

【椎原委員】

市民との関わりの周知度のところで、特別支援学校モデルの応募の減少は、アンケート集計にあるような改善点と、どのくらいリンクしているのか、主催者としてどのくらい把握しているのか。なぜなのか状況分析は出来ているのか、お伺いきしたい。

【文化振興課 川口主査】

調査をしなければいけないとの認識はあります。連続して出演することを妨げないイベントですが、応募者数が減ったことは、アンケート集計を見ますと、そこに書けない何かがあったのかと思います。今後、もう少し掘り下げて、調査、確認をして改善策に反映していきたいと思っております。

【神野委員長】

その上での「2」との評価ですね。

【ジャブリ委員】

5の効果の(2)費用対効果の評価が「3」になっていますが、評価理由のところを読むと「4」でも、

いいのではないかという気がします。来場者増につながる可能を考えると書いてありますが、あの会場の規模では、来場者数は、限界ではないかという気がします。中央のステージにいる人が、見えない状態でしたので、あの会場では難しいと思いますので、費用対効果は十分であったと思います。

【神野委員長】

評価が「3」である理由というのは。

【文化振興課 川口主査】

パフォーマンスは1階で、アート展示は3階ということで、そこをいかに、お客様の足をつなげるかが課題でした。ファッションショーを見ていただいた方が、3階に足を運んでいただいたこともありましたが、同じ日にやったイベントとしては中身の共通性がなかったのではないかと思います。アート展示とファッションショーと違いはあってしかるべきですが、もう少し場所を利用して双方のPRをすればお客様の足が増えたのではないかと考えて「3」ということです。

【ジャブリ委員】

費用対効果から内容がずれていませんか。

【文化振興課 川口主査】

そうですね。ただ、同じ金額で、もう少し中身を工夫すれば、より動員人数が増えたのではという点で、費用対効果のところに書かせていただきました。

【神野委員長】

説明していただいた内容は、事業の狙いのアプローチの中でもっと良い方法があったかもしれないということで「3」としていただいています。費用対効果の点でいうならば、十分 商業施設の中でやって、知らなかった人や関わりをもっていなかった人に触れる機会を設けることができたことは、積極的な事業であると思いますので、わたしも「4」でもよいのではないかと思います。

会場の規模の問題も指摘されましたが、大規模なものに適した場所ではないので、あそこでやることは別の意味があると思います。立ち寄ること、知っていただくことが一番大きなねらいだと思います。印象としても、これ以上難しいというところまでいっていると指摘もあって、それが、ねらいであるのであれば、そこを求めなくてもいい気がします。

【ジャブリ委員】

自転車のパフォーマンスが、会場の規模からすると、ぎりぎりの大きさと危険でやりにくそうでした。もう少し広い場所を用意した方が、いいのかなと気がしました。

【神野委員長】

パフォーマンスに適した会場という問題と、イオンモールのような大勢の人が来てくれるところで触れてもらうということはどう考えるかですね。自転車ではない何かをやった方がいいのではないかと

うこともありますし、必要であれば会場を別に設けてということもありますし、どう関わっていくかということが必要になってきます。今後の課題として考えていただきたい。

【鶴田委員】

場所が、大変わかりづらく困難を感じました。会場に到着してからの、チバフリの場所が分からなく、縦長の商業施設の中で、行くまでが大変だと思いました。その事に関しても、周知であるとかアプローチとかの項目で、評価していただけないかと思いました。

【神野委員長】

当日の会場の周知ですが、イオンモールの中で奥まっっており、進んでいけば気が付くかと思いますが、会場を目的に行く方に十分な周知の仕組みであったのか、もう一度、検証していただいて、周知のところに入るかと思いますが、改善していただくということで、「2」の評価の中に含ませることでいかがでしょうか。

【ジャブリ委員】

障害者と健常者が、一緒に楽しむイベントとうたいながらも、会場の環境が、障害者にとっては非常に楽しみにくい環境であったと思います。中央のステージは、段差もないところで、すし詰めの状態であり、障害者のレベルによっては、会場にいただけで、困難を極めることではないかと思います。

【神野委員長】

アンケート集計の中に、肢体不自由の方が寝転がってみることができる環境があるといいとあり、この事業自体、多様な人たちが、バリアフリーで参加できることを作りたいとの事があると思いますので、今後、検討される内容かと思います。どこにあたるのでしょうか。

【ジャブリ委員】

項目は見当たらないです。

【神野委員長】

その他の効果等で付帯内容として記していただければと思います。

今の議論をふまえて事務局でまとめていただきたいと思います。基本的には、いい事業だと思いますので、よくしていただくようお願いしたい。

続きまして、資料1-4 いきがいつくり事業（若葉文化ホール）小椋佳「歌紡ぎの会」をお願いいたします。

<若葉文化ホール説明>

<視察シート 文化振興課説明>

【神野委員長】

若葉文化ホールのいきがづくり事業についての、ご意見いただければと思います。

【ジャブリ委員】

2の戦略的な視点・基本姿勢との適合の(3)領域の広がりに関してですが、感動したから、領域が広がっているということですが、わかりにくく、もう少し説明いただきたいです。

【神野委員長】

「3」という評価ですが、感動が生まれてということの内容が書かれていますが、領域の広がりとあまり関係がない内容であります、別の評価があればご指摘いただけないでしょうか。

【若葉文化ホール・野崎企画広報担当】

併設して千城台コミュニティセンターをもっておりますが、そこでも、舞踊等いろいろな活動をしている方々いらっしゃいます。その方々にとっても、メジャーな公演を見る、プロの公演を見る機会は、活動の糧になるのではないかと、こちらのような回答をさせていただいた状況であります。

【ジャブリ委員】

感動が新たな芸術文化を生む原点であるということ、領域が広がるという理屈が、わかりません。

【神野委員長】

今までと慣れ親しんだものと違ったものに参加したり、体験することで、新たな活動が広がったり、参加することが多様になっていったりすることが求められていると思います。その内容に触れているような部分ではないような気がします。小椋佳さんのコンサートがあることで、それによって広がりがあったという説明に聞こえましたが、それはどうなのかと思います。

若葉ホールとしては、収益事業として重要な事業であったのではないかとありますが、いかがでしょうか。

【若葉文化ホール・野崎企画広報担当】

収益としては0に近く収益事業とは考えておりません。小椋さんの通常の公演費用を考えた時に設定した料金は、お客様に対してぎりぎりに対応しています。指定管理料を使うことによって実施できたということになります。

【神野委員長】

公演が、収益事業ではなくてということは、それによって、どのように市民へ還元を伝えられるかというときに素晴らしい演奏を楽しむことにも価値がありますが、評価仕様は、それだけではなく、お年寄りが満足したということばかりが全面に出ていて、確かに評価はできるとは思いますが、参加体験という、どこまで評価されるか疑問に思いますが、他の委員の方々、いかがでしょうか。

【藤田委員】

若葉文化ホールは、期待感を上げることができたということは活動の活性化と、どういうリンクをしていくのか疑問ですが、どう捉えるのでしょうか。

【神野委員長】

文言の背景を説明していただけたらと思います。

【若葉文化ホール・野崎企画広報担当】

前に実施した公演のチケットをご購入されたご婦人から「この公演に行くために頑張って元気に生きます」というお言葉をいただいたのが、1つのいきがづくり事業として、この事業をあてた原点でもあります。チケットを販売したとき、なかなか購入されない、それまで元気かどうかわからないから買わないという方が多い状況があります。市民中心で販売すること、今まで若葉文化ホールを知らない人を含めまして、販売することで若葉文化ホールの期待感を上げることができたのではないかと考えています。

【神野委員長】

高齢者という特定ターゲット層に関していうと コンサート会場に来ていただくこと自体のハードルが高くなっているのです。そのことを実現することが、参加体験活動として求められていることではないかということですね。

【若葉文化ホール・野崎企画広報担当】

若葉文化ホール自体では有料公演がありませんで、無料公演が多い状況であります。その中で有料公演を行うことで、千葉市以外の地区の行かなければ見られないものを、地元でみることもできるということが重要ではないかということで企画した事業になります。

【椎原委員】

キャパが500弱のホールで若葉区中心となりますが、団地の高齢化が問題になっていて、そこまで行くのか大変になりつつある中で若葉区の高齢者にある種のきっかけ作りとなっていると判断しました。評価資料としては本当であるなど判断しました。

【ジャブリ委員】

領域の広がり「3」の評価は高いかなと感じました。理由としては、事業視察シートで述べさせていただきましたことです。

【神野委員長】

視察シートの中では、もう少し内容に工夫ができたのではないかということですね。

【ジャブリ委員】

市の文化イベントでもありますので、異文化に触れるきっかけを盛り込むために楽器の背景、歴史の説

明などを入れるとか、質問の場を設けるなどして少し文化的な要素を盛り込むことができたのではないかと。来年以降の参考にさせていただければと思います。

**【神野委員長】**

当初のねらいとして、高齢者の方々にホールに足を運んでいただく。それを、いきがいにつなげていただきたいということは、椎原委員にご指摘いただいたように、目標としても達成していると思います。

さらに、ジャブリ委員のその他のところで可能性があると思いますが、市の施設が社交場になるのもいいのではないかと思います。体験を共有できるような場所として何か仕組みを工夫すると、説得力のある、魅力ある事業になるかと思いました。

次に1-5 千葉市美浜文化ホール企画提案事業「いきがいつくり事業 印象の巨人 クロード・ドビュッシー～音楽と言葉で感じるひととき～」をお願いいたします。

**<美浜文化ホール説明>**

**【神野委員長】**

いきがい作り事業の中に設けられているクラシックのコンサートです。クラシック音楽のソムリエの方を、ナビゲーター的に起用し進行していく内容になっています。平日の昼間に行われ、戦略としては、高齢者対象とした意味を持って行なわれたものだということです。

**【椎原委員】**

おおむね、良好であると判断いたしました。よい事業であると感じました。平日の公演は、全国的に高齢者にターゲットを絞ることが流れになっている。戦略性がある、高齢者に絞る事業ですから、そうなのですが、それ以外の事業が気になります。

**【神野委員長】**

本事業の評価には、関わりはありませんが、その他に、クラシックの音楽コンサートでシニア層に向けた以外の取り組みをされていますか。

**【美浜文化ホール・太田館長】**

毎年、子ども育成事業として、絵本朗読コンサート、既存の絵本の中から作品を選びまして、第一部で、子ども向けにクラシックコンサート、第2部でオリジナル作曲による絵本朗読コンサートを毎年行っています。世相としては幅広く捉えております。

**【若葉文化ホール・野崎企画広報担当】**

若葉文化ホールにつきましても、同様に、子供向けコンサートをしております。今年度は、和楽器をメインにしたコンサートをして開催しております。

【神野委員長】

本事業に移りたいと思います。

【廣崎委員】

先ほどと比べると、費用が少なく、市民に還元されている事業でとても楽しかったのではないかと思います。創意工夫が感じられました。

【神野委員長】

ナビゲーター役がいると楽しめるのではないかと、専門的な知識を持っていて丁寧だという気がします。

【ジャブリ委員】

チケットの値段が、非常に安いですが、どのようにして達成できたのでしょうか。

【美浜文化ホール・太田館長】

企画提案事業として、指定管理料から予算を充当していること、クラシックソムリエの方をナビゲーターとしてお招きすることによって、クラシックソムリエとアーティストの関係性で出演料なども全体的に抑えられた事。そのような点でかなり予算は、当初予定していたより抑えられました。収入のその他は、入場料のことですがおかげさまで完売ということで、予算内でおさめられたということです。

【神野委員長】

指定管理料の中から予算を充当することも考えていて、色々と工夫をする中で、完売という成果も出せたということです。

【椎原委員】

クラシックソムリエとの関係性が、継続性があるか否かということが、今後、問題になるかと思えます。あるいは、この人だけに頼っていいのか。マンスリークラシックをやっているようですが、この運営のところで、一事例を見た感じではよい事業であると思えますが、重要と思われるのは、たまたまではだめだと思うので、継続性ということをごどこかに仕様の中に盛り込められたらと思いました。

【神野委員長】

2-3 戦略的な視点・基本姿勢との適合の領域の広がりの中で、単発のコンサートだけではなく、今後の戦略があるのであれば教えてください。

【美浜文化センター・太田館長】

クラシックソムリエとの関係性については先ほど椎原委員がおっしゃられたように、この方だけに頼っていてもというのがありますし、いきがい作り事業の昨年度は、クラシックソムリエにお願いしてヨーロッパ在住のアーティストを紹介いただけたのですが、今年的美浜マンスリークラシックなどでは、基本的には千葉市ゆかりのアーティストなどを考えております。今年度の事業に関しましては、順調と

は言えない部分もありますので、指定管理者として努力していく部分と認識しております。継続性も残せるように頑張っていきたいと考えています。

【鶴田委員】

この評価については、事業としての評価であるわけですね。そこで、どれだけ市民に還元できたかという点を評価できるのかと考えておりました。全体の継続性とかの評価は、どの場でできるのか、どういう風にして求めることができるのかと思っていました。今、私たちが行っていることは、単発の事業に関しての評価でしかないのかなと思います。

【神野委員長】

事業そのものが、持続性の中で、戦略的に位置づけられるものだということに関して、積極的に2-1あるいは3あたり、子ども若者も踏まえて考えていますよということであれば、2に関しても記述してもいいのではないかと、その辺の部分ももっと書いてもいいのではないかとこのところがあると思います。

【藤田委員】

2の(1)(2)に関して 成功事例だと思えますが、両方とも「3」ですが、うまくいっていれば「4」をつけても差支えがないのでは、評価も高いですし、着券率100%は信じられない数字だと思うので。遠慮せず目的が、達成出来ていれば「4」をつけても差し支えはないと思います。

【神野委員長】

完売していて、100%千葉市民であれば満点であるかということ、市外の人購入を拒絶することが妥当であるかということそうでもないですし、現実には、どうしようもないので、「4」でいいかと思えます。

子ども・若者に関しては、生きがい作りということで高齢者を対象にしているので、中々難しいです。事務局と話し合いたいと思いますが、事業の評価としてそぐわないものに関しては該当せずと評価をしてもいいのではないかと思います。

それでは、最後に、「1-6 小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業」お願いします。

<千葉市美術館説明>

【神野委員長】

美術館が行っている小・中・特別支援学校に、バスを提供して美術館訪問の機会を提供し、鑑賞していただくという事業です。ご意見をいただければ。

2の戦略的視点・基本姿勢との適合で(3)領域の広がり、評価が「3」になっていますが、1点下がっている理由が、評価の中から見受けられないのですが、何かあるのでしょうか。

【美術館・畑井学芸員】

鑑賞教育を通して、子供たちの日常や学校での学びというところと結び付けて持って帰ってもらいた



ということでプログラムを作成していますが、美術館として、経験した子供たちの、その後の広がりを追いつけないというところと子供達からのその後の声が集めにくいという現状があるということで1つ下げています。

【神野委員長】

学校の教育課程との関わりの中で実施していますので単なる経験で終わらせず、その後の学びの効果測定をした方ができたほうがいいが、そこまで充分できていないので、領域の広がりも今後ということで評価が「3」になっているということですね。

周知度のところも「2」になっていて 認知度が十分ではないということですが、各学校に全て書類を出しているかと思いますが、それで周知度が低いということは、理解できないのですが。

【美術館】

学校に書類を送りますが、教務主任とか校長先生は見て、回覧されず終わる場合もあり、担当者まで情報が届かない場合があるようです。学校は、情報が多いため、紛れてしまって見ているようで見ていないようなことになっている。効果的な改善を模索しているところです。

【鶴田委員】

コアな内容の展覧会、コレクションそのものが一般的な物というよりは、特別であると思うのです。テーマを見ても小中学校の生徒さんたち、学校の先生たちがこれは自分たちにはどうかなと思うのではないかと思うのですが。

【神野委員長】

美術館の説明からすると、応募は、目標の数値に満たないことはないですが、結局、授業としてありがたくて価値があるとわかっている先生しか申込まないということですね。美術館の学芸員たちが工夫していますので、取り上げられている展覧会の内容が子供向けではないことが問題ではないと思います。

【椎原委員】

4-2の周知で認知されていないわけではないと思います。学校の運営自体に則していないということが多くあるので、今後、周知という指標が適切なのかということなんだろうと思います。周知すればできるというわけではなく、実際に、この事業が、効率よく各学校が参加できるようになるには、周知とは別の指標のような気がしてならないです。

【神野委員長】

具体的な働きかけが求められる。教務主任などが、この事業を知っている、この事業の価値を知っている方の場合は、年間の計画の中に最初から組み込むわけですね。実際に年間の計画に関して、現場の先生がどこまで影響力を持てるかという点も厳しい。椎原委員のご指摘は、そのような状況がある場合、働きかけに行くことが、知らしめるだけではないのではないかと指摘かと思っています。

【廣崎委員】

教育委員会との連携が必要な事業かと思います。事業自体とってもいいものだと思っています。今行きたくても行けない貧困家庭とか、親が忙しいとかあります。私も、もっと拡大して予算を取ってほしいと思います。予算が少なくバスを出すのが難しいようなことも書いてあります。もう少し予算を取って教育委員会と連携をして、学校のカリキュラムに入れるような体制が作れたらいいなと思います。

【那須生活文化スポーツ部長】

来年の4月に、美術館がリニューアルいたします。千葉市の大事な資源、財産として、美術館を子供たちに、どのように認知してもらうか。誇りに思っていたかどかと教育委員会と話を詰めていこうとの認識はしています。実際、少しカリキュラムが難しいところがあるので、しっかり詰めてどういう可能性があるか、しっかりやらせていただきたいと思っていることが事実であります。

【鶴田委員】

公共機関を使う場合の費用はどちらが出すのか。

【神野委員長】

学校が出します。補助金は無いので。

【関委員】

全員がバスといったらだめとなるのですか。バスの借りあげの予算が限られていますか。

【神野委員長】

抽選になるか、今まで、応募してきてない学校が優先になるか、美術館がやられていると思います。

【関委員】

予算が多い方がいいですね。

【藤田委員】

市美術館の別の資料を見させていただきますと、7割、8割は40、50代以降で、10代、20代の方々は少ないので、この事業は、非常に大切だと思います。教育委員会に、働きかけて広めていただかないと。いい文化遺産をもっても、誰も受け継いでいただかないとらないということになってしまうと困ります。学校運営もかなり忙しいかと思いますが、教育委員会と詰めていただいて、文化政策も大事で、これからもオリンピック・パラリンピックもありますので、強くアピールしていただければと要望します。

【神野委員長】

今後、大きく期待される事業でもありますので、周知のところでは、まだ課題があるということで厳しく「2」をつけていますが、基本的に「3」でいいのではないかと思います。補足になりますが、美術館

に行ったことがない子供たちが多いです。今回、初めて美術館に行きましたという子どもたちも多いので、市の資源を有効に使うという事が、藤田委員からのご指摘もいただいたように、重要な事業だと思います。今後、ますます期待したいと思います。

以上で、1次評価シートの検討に関しまして、終了させていただきます。時間が予定を大幅に過ぎてしまい、議題の2と3に関しましては、2は、資料を見ていただいて、ご意見、ご質問がある場合には、事務局のほうに、メール等をお願いいたします。

【小名木課長】

議題2につきましたは、事務局である程度選定させていただいた上で 委員の皆様にもメール等でご確認させていただきまして、12月の会議等でご確認いただけましたらと思っております。

【神野委員長】

議題3についてはどうしますか。

【文化振興課・小名木課長】

説明できる時間はございませんので、ご覧いただいて ご意見等ございましたら、事務局の方までお寄せいただければと思います。

【神野委員長】

その他についてですが、芸術文化振興事業補助金交付事業の実施の報告書ですが資料を見ていただいて、事務局にご意見、ご質問がある場合は寄せていただく方法でよろしいでしょうか。

【文化振興課・小名木課長】

令和元年度の芸術文化振興事業補助金採択事業の日程がかたまりましたので、有料催事のご視察をご希望される場合は、3週間前までに、文化振興課にいつ・どの催事を、ご予約をご連絡いただけましたら主催者と連絡を取りまして、ご招待券を郵送にてお送りさせていただきます。

【神野委員長】

事業視察のご意見、大変貴重なご意見が多いので、日程が合いましたら、ぜひご視察していただければと思います

事務局のほうから何かありますか。

<事務局説明(新しい文化プログラムについて)>

【神野委員長】

展示を通して、千葉を見つめ直していただくという部分と、ななめな学校のワークショップによる学びの体験という2つの柱を通して、千葉市内ということを考えて、限定的にはなりますが面のひろがりを持って展開したいと考えております。

本日、1次評価シートの内容の検討が1番重要で時間をかけてしまい、その他のことに十分対応ができなかったことをお詫び申し上げます。

それでは以上で本日の議事は終了します。